

校長室

だより

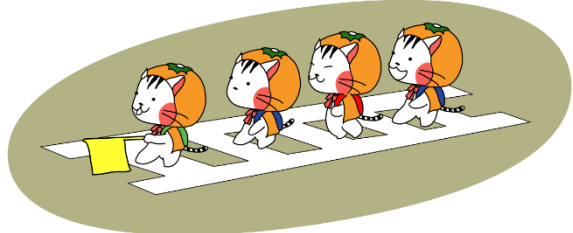


R7.6.17 Vol.12

ハイタッチ!

朝、登校してくる子供たちからとても元気のよい挨拶が聞こえます。ハイタッチしながら「おはよう!」そんな毎日の光景です。ある日、地域の方がゴミ出しをされていて、偶然、その場にいらっやいました。その様子を見て、「へえ。ハイタッチしてるの?なんかいいね。朝から気持ちいい。」そうおっしゃられて「そしたら私も!」と私にハイタッチをしていただきました。

地域の方も「いってらっしゃい!」「おかえり!」と声をかけてくださる環境に感謝、感謝です。



大正3年製造

今年度の運動会では公民館長さんのご尽力で、大正3年に製造された消防用の手動ポンプが中学校前に展示されました。真穴小学校150年の歴史に真穴消防100年の歴史が花を添えてくれたような気がします。実物を見ると、隔世の感の塊でした。が、ふと思いました。『これが作られて100年以上。当時から見ると私は100年以上先の未来人。でもこれ、今の自分に作れるのかな…無理だな…。』

それなりにタブレットやスマホを使ったりしちゃって未来人感出していますが、私は、ものを生み出す技術は大正時代の方に遠く及びません。

未来人の私たち、便利をそれなりに使いこなすことはできていますが、便利を作り出すことは先人の方が数段上なのかも。そんな気がしました。



四方山話真穴 ver2. 其の十一(1/f ゆらぎ)

天気の良い日の下校指導。海に目をやるとまぶしいくらいの海面のきらめきがとても心地よいです。他にも焚火の炎のゆらめき、木の葉や小川のせせらぎ、木漏れ日、波の音 etc.自然の中には心地よい音や光があふれていますね。これらを1/f ゆらぎ(f分のいち ゆらぎ)と言うそうです。ざっくりですが、整い過ぎず、乱れ過ぎず、ちょうど良いバランスのものとも言えるでしょうか。例えば、寄せてはかえす波も一度たりとも同じものはない不規則なものですが、大きく捉えると「寄せては返す」という規則性がありますよね。人間はこのような環境の中にいるときに、安心し、リラックスするのだそうです。ちなみに私は焚火を眺めているとき、仕事やこの四方山話のアイデアがふと浮かぶことがよくあります。リラックスしているけど、集中力は高まっている気がします。

昨年、県PTA連合の会長さんが真穴小を訪問され、目の前の広がる景色に圧倒されていました。今年、転任されてきた用務員さんも、「きれい!すごい!! はじめてみた!!! 感動!!!! \$#▲@&○!!!!」とビックリマークを連発されていました。もちろん、眼前に広がる雄大なパノラマがそうさせているのだと思うのですが、その中にあるたくさんのゆらぎも無意識に(本能的に)感じ取っているのではないかと思います。

昨年度、「アナログ(自然)にこだわるわけ」を幾度かお話ししました。私も(おそらく保護者のみなさんも)本能的にゆらぎの心地よさや大切さを感じ取っています。子供たちが動画やゲームに夢中になるのはそこに**そうなる仕掛けが人為的に巧みに組み込まれているから**です。(子供の健全育成のためではありません。当たり前ですが営利目的です。)それは自然の中で感じるゆらぎとはほど遠いものでしょう。先日の新聞に「スマホに夢中になっている時の子供の脳は寝ている時と変わらないほど**集中力の低下**が起こっている」そんな記事がありました。心身共に育ち盛りです! 何を与え、何と関わらせるのか、一緒に考えていきたいですね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。